

一般財団法人京都ユースホステル協会

2016 年度事業計画書(案)

期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日



一般財団法人京都ユースホステル協会は、
新しい旅と、旅する青少年の健全な成長を応援します。

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町 29 宇多野 YH 内

TEL: 075-462-2312 FAX: 075-462-2289

URL: <http://www.yh-kyoto.or.jp> E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目次

目次	2
はじめに	3
国際ユースホステル連盟採択基準	4
事業方針	
・ 実行指針／重点施策	5
事業活動	
I. ユースホステル活動	6-7
II. ユースホステル関連活動	8-9
III. 宇多野ユースホステル（指定管理事業）	10-11
IV. 天橋立ユースホステル（指定管理事業）	12-13
V. 組織運営	14
予算概要	15
組織概要	16

はじめに

経済の先行き不透明感が増すと共に、中東をはじめとした各地での紛争やテロの脅威が増大する中、力による問題解決の難しさを改めて感じます。

また、2015年の訪日外国人旅行者数が1974万人となるなど、国境を越えた人の動きはますます活発になることが予想されます。

ユースホステル運動は、第一次世界大戦をはじめとする戦乱を経験して、平和の大切さ、人種や国籍、肌の色、宗教、性別、階級や政治的信条、歴史や文化、習慣の違いを越えて、相互にその価値を理解し尊重することがいかに重要か、平和にとって大切か、その活動を通して実践しております。そして、そのために必要な差別のない宿泊利用ができるユースホステルの設置や運営に取り組んでおります。

そうしたことから、この活動は、とりわけ成長過程にある若い世代にチャレンジ精神や他者への思いやり、共に生きる力や相互理解力を育むなど、若者の成長に寄与しております。

しかしながら、生活環境や社会が変化する中で、その価値を若者に伝える手段や方向、取り組みについても変化への対応が求められてきました。

京都ユースホステル協会では、ユースホステル連盟の国際総会で採択された『3つの原則と4つの価値基準』(P.4)に沿った取り組みを継続し、ユースホステルらしさを発揮できる地域固有の価値や資源、ネットワークを活かした取り組みや施設運営、若者の参加機会の提供などに継続して取り組んでまいります。

それは、中期的な目標でもある時代の変化に対応した「ユースホステルの現代的価値の創造」にもつながります。

その他、宇多野ユースホステルや天橋立ユースホステルの運営や施設管理については、引き続き利用料金制による指定管理運営に対応した持続可能な運営や財政基盤を確立すると共に、これまで課題となっている宇多野ユースホステルの使用料の上限額の改定や天橋立ユースホステルの施設の老朽化や耐震補強への対応、運営条件等の見直し検討などにも継続して取り組んでまいります。

2016年度は、これまで積み上げてきた取り組みや事業、サービスの質を高め、更に事業を発展させるために、「深まりや高まり」、「つながりや推進」をキーコンセプトに、次項に掲げた事業計画に取り組んでまいりますので、活動へのご理解、ご支援を重ねてお願いいたします。

専務理事 高田光治

『3つの原則と4つの価値基準』

《3原則》

I. 「旅する自由」「旅行者の平等」の原則

- ・ 手頃な料金の安全な宿泊施設の提供
- ・ 世界各地からやって来る人々に出会いの場を提供
- ・ 人種、国籍、肌の色、宗教、性別、階級、政治的信条に基づく差別を受けることのない宿泊
- ・ 違いや多様性の尊重
- ・ 障害者向けアクセス、奨学金／補助金での支援

II. 「学ぶ権利」の原則

- ・ 多様な文化的価値基準、人々、地域についての理解促進、好奇心の育成
- ・ 地域文化について学び、実地体験する機会を提供、間接教育の場／環境の提供
- ・ コミュニティへの参加意識（学習体験としてのコミュニティ参加）の促進
- ・ 人々／他の旅行者と長期にわたって出会う場の構築
- ・ 互いに学び合い、また他の文化や人との出会いからの学習

III. 「持続可能性に対する義務」の原則

- ・ 持続可能なツーリズム活動の推進
- ・ 財政的持続可能性／金銭的公平さ（給与）
- ・ 環境保護／二酸化炭素排出量の削減
- ・ 地域社会への貢献／フェアトレード

《4つの価値基準》

I. 利用し易さ（Accessibility）

質の高い宿泊施設をグローバルに提供することにより、旅行の促進および普及に努める。
安全かつ手頃な料金／誰でも利用出来る施設提供／旅に関する情報とサービスを提供

II. 一体性（Inclusivity）

違いや多様性を認め、誰もが自分の価値を実感し、一体感を持てるよう努める。
すべての人に開放／違いや多様性の尊重

III. 学習と理解（Learning and Understanding）

次のことを通じて学習や理解の促進、支援に努める。
旅を通じて多様な文化、人々、地域について学習／責任あるツーリズムの促進／課外活動への支援／
コミュニティの一員としての活動

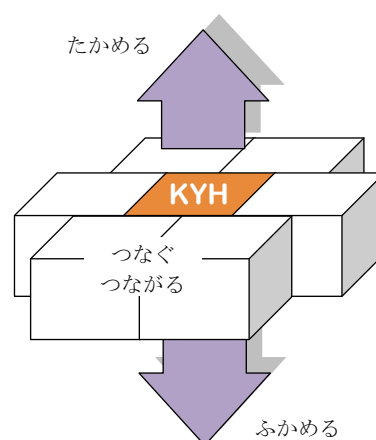
IV. 持続可能性（Sustainability）

次のように環境的にも社会的にも責任ある方法で行動する。
二酸化炭素排出量およびエネルギー消費の削減／リサイクル活動を通じて廃棄物の量を制限／
地域社会活動への貢献と参加／スタッフが働き、成長し、自分の価値を実感できる場の設定／
志を同じくする組織とパートナーシップを構築

事業方針

[実行指針]

1. 「つなぐ」
特に若者に主眼を置き、旅行者同士、
また旅行者と世界や京都の橋渡し
2. 「つながる」
世界のユースホステルや関係機関、団体、
地域と連携・協働による多様性の創出
3. 「たかめる／ふかめる」
**今まで行ってきた活動・取り組みの
品質改善・向上・推進**



[重点施策]

1. 外国人や日本人青少年層の利用拡大
現在、追い風にある外国人の宿泊だけでなく、旅をすることが減少してきていると言われる日本人の青少年層でも目標設定し、宿泊利用の拡大を目指します。
 - 宇多野ユースホステル 外国人宿泊実績目標：14,500名
30才までの日本人宿泊実績目標：24,300名
 - 天橋立ユースホステル 外国人宿泊実績目標：650名
2. 更にユースホステルの独自性を追求した事業活動の展開
今までの“つなぐ”・“つながる”でできたネットワークを活かし、更にユースホステルらしい旅や体験、出会いを体感できる事業を推進します。
3. 総合的な品質管理の実行
様々な経営資源の活用について、これまでの取り組みを整理・見直し・改善を行い、安定した運営を持続するための組織力を高めます。特に、人材は全ての資源を動かす原動力となるため、引き続き計画的に育成を行います。
4. 検討課題への継続的な取り組み・働き掛け
物価上昇等に対応した宿泊費上限額の見直し（宇多野ユースホステル）、持続可能な運営のための収支状況の改善や施設の老朽化対策・耐震補強（天橋立ユースホステル）、若い世代の旅の促進につながる取り組み（ユースホステル活動）など、様々な課題の解決に向けた担当部局との継続協議や関係機関との連携を図ります。

事業活動) Ⅰ. ユースホステル活動

これまで実施してきた事業の見直しを図り、連携してきた各種団体・個人と共に、更に質を向上させ深めた事業活動を進めていきます。特に、昨年度全国的に伸びているインバウンドに対して、旅に出なくなったと言われる国内の青少年に向けて、学びや体験の旅へ出てもらうための啓発や活動に力を入れます。

[事業分野別目標]

- ユースホステル活動における学びや気付きについての具体例の抽出や紹介 (10 事例)
- イベント・事業活動参加者数：延 16,500 名 (前年度目標 16,500 名)
- 青少年を対象としたイベントや事業活動参加者数：延 5,000 名 (エブリデイワンを除く)

[活動内容]

1. ユースホステル運動の普及活動

【青少年に対して広くユースホステルを知ってもらう啓発事業の実施】

- a. 日本ユースホステル協会やドイツ観光局、旅企画会社 TABIPPO 等と連携した若者向けの宿泊型旅啓発イベントの開催
- b. 若者を中心に地域の方が集える夏祭りの開催
- c. 近畿運輸局と連携した「若旅授業」の継続開催

【青少年に対して直接体験を促す機会の提供】

- d. ユースホステルを使った子どもの自転車旅の実施協力
- e. 子どもの「なかよしキャンプ×京都旅プラン」の実施
- f. 子ども向け事業の継続：ネーチャーキッズ、フレンドステイ、ガリレオサイエンス等
- g. 近畿ブロックのユースホステル協議会等と連携し、少年や青年のユースホステル会員証の無料発行等の実現

2. ユースホステル交流創出活動

- a. 外国人が京都や自国についての紹介企画や京都を案内する機会の提供
- b. インターンシップや外部団体と連携したユースホステル発の自転車ツアーの開催

3. 旅 (ホステリング) 事業

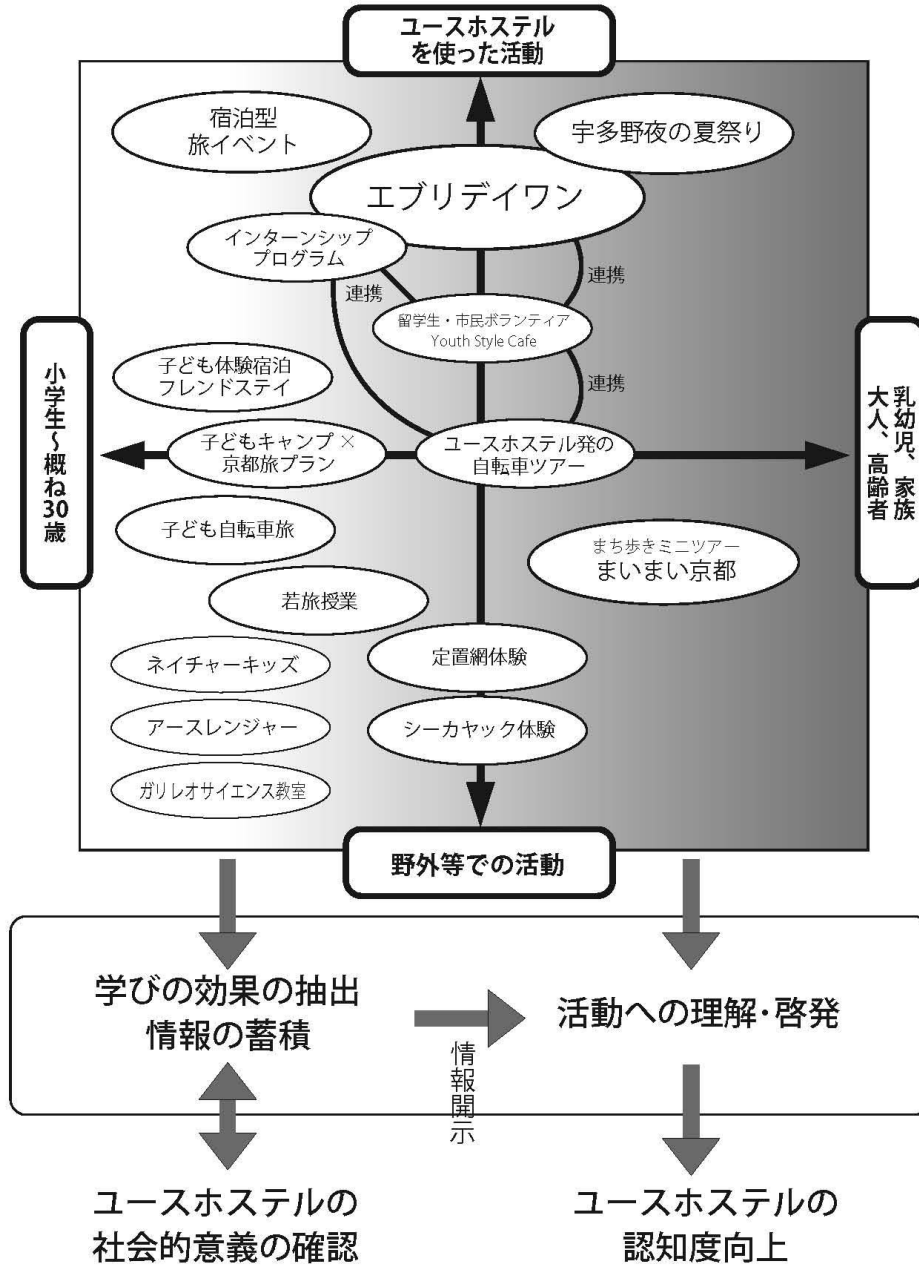
- a. 教育旅行向けの環境学習等エコプログラムの企画提案
- b. 京都まち歩きミニツアー「まいまい京都」の継続

4. ユースホステル活動における気付きや学びの取組みを抽出

- a. 継続的に活動に関わる若者を中心にヒアリングやアンケートを実施し、ユースホステルという場を通しての気付きや学んだ事の収集、情報発信

【ユースホステル活動一覧図】

※天橋立ユースホステルの活動も含む。別紙事業・イベント一覧参照。



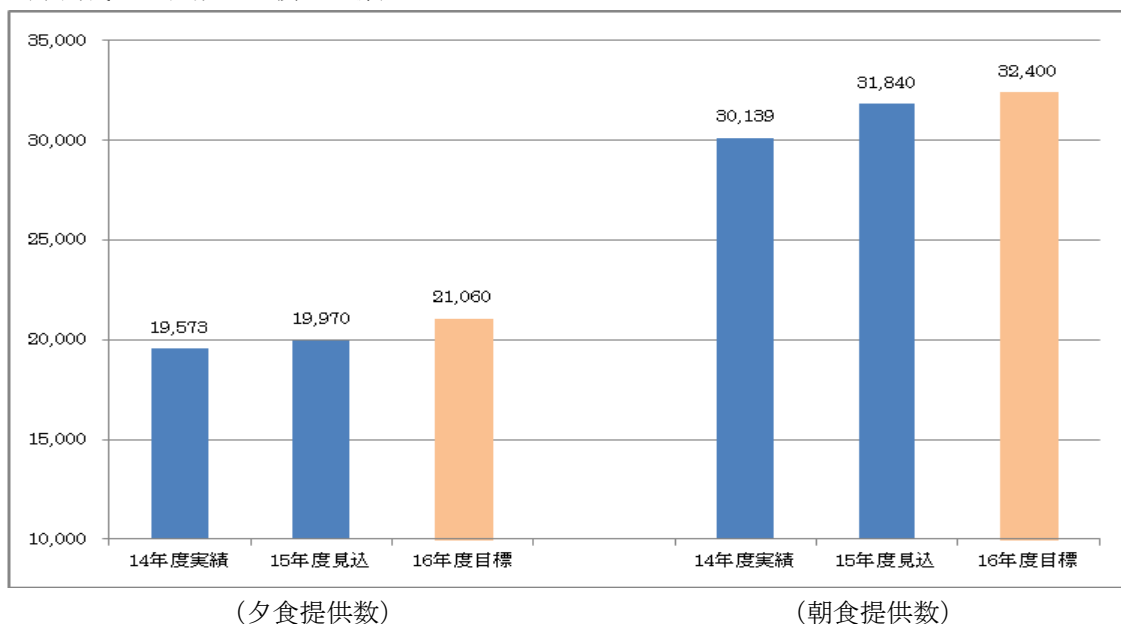
事業活動) II. ユースホステル関連活動

子どもから年配の方、海外の方々など、宿泊者のみなさんに「美味しい」と喜んでいただく食事提供や物品販売等のサービス向上を目指します。“宿泊に付随する食事”ではなく、宿泊の魅力を高め、楽しみを増やす“美味しい食事”の提供に取り組みます。

[事業分野別目標]

- 年間食事提供数：(夕食) 21,060 食、摂取率 52.0% (前年度目標 20,020 食)
(朝食) 32,400 食、摂取率 80.0% (前年度目標 30,800 食)
- アンケート満足度評価：4.5 以上 (5 点満点)

(年間食事提供数の実績と目標)



[活動内容]

1. 衛生面の徹底とスタッフの意識向上の取り組み
安心、安全な食事提供と衛生環境向上の為に検査や講習等を継続的に実施します。
 - a. 食中毒等の予防の為に、食事提供従事者への保菌検査を毎月実施
 - b. 出入業者への保菌検査や自社検査結果の提出を依頼
 - c. 衛生面に関する知識や意識の向上を図る為にスタッフミーティングや講習の実施
 - d. 京都市制定の規則に沿ったゴミの適正な処理を実施
2. 居心地の良い食事環境の整備
美味しい食事はまず環境から。みんなで大きな食卓を囲んでいるような楽しい雰囲気の食堂作りに取り組みます。
 - a. 居心地が良く、明るく清潔感あふれる空間づくりや工夫などの取り組みを実施

b. フレンドリーなおもてなしなど、スキルやサービス向上の為にスタッフミーティングを実施

3. 多様なニーズへの対応

増えているアレルギーやベジタリアン、ハラール等の思想、信条、宗教等に関する食事ニーズに対応した間違いのない安全、安心、確実なサービスの提供を行います。

- a. アレルギーや対応食についてスタッフの理解を深める講習の実施
- b. アレルギー等の食事提供や食事の食品成分表の確認等をより確実にを行うためのチェック機能の改善と情報の共有

4. 新たなチャレンジとしての取組

京都ブランドを食事に活かす取り組みを進める他、また地域の方にも夕食を楽しんでいただく日を設けます。また物品販売においても京都ブランドを活かした品揃えを充実し、国内外の宿泊者や施設利用者の方に喜んでいただく取り組みを行います。

- a. 京都産の食材を活かした特別食の開発と提供 **(新規)**
- b. 地域の方にも夕食を楽しんでいただく日を設けるなどの取り組み実施
- c. 京都産や地元産を特食にした商品の販売 **(新規)**
- d. 「Wasabi わさび味」「Maccha 抹茶味」など和スイーツの販売充実

事業活動) III. 宇多野ユースホステル

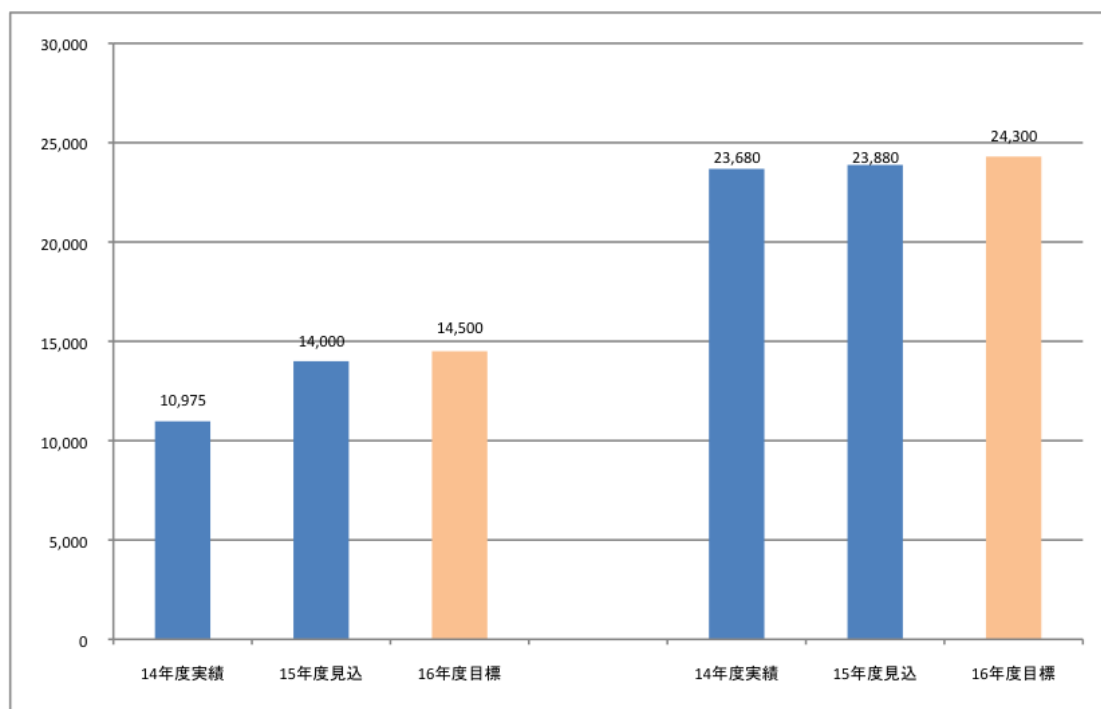
利用料金制移行後の指定管理 2 年目を迎える 2016 年は、宇多野ユースホステルの存在意義を今まで以上にしっかりと示していく必要があります。そのため継続的に行ってきたことを今一度精査し、多方面から見直し、改善点や新しい方向性を見いだします。

また、利用料金制における安定した運営や施設管理、経営を行う為に、使用料金の上限額の見直しやこれまでの取り組みを振り返り、変化に対応できる効率の良い運営を目指します。

[事業分野別目標]

- 年間宿泊者数 : 40,500 名 (前年度目標 38,500 名)
- 年間外国人宿泊者数 : 14,500 名 (前年度目標 11,000 名)
- 年間青少年宿泊者数 : 24,300 名 / ~30 歳、全体宿泊数の 60% (前年度目標 23,100 名)

(年間宿泊者数の実績と目標)



(外国人宿泊者数)

(青少年宿泊者数)

[活動内容]

1. 宇多野ユースホステルを特徴づける体験の提供
京都らしさや地域、ユースホステルの特色を活かした体験を提供することで、宇多野ユースホステルの独自性をしっかりとアピールします。
 - a. 京都在住外国人や留学生、研修生による京都の魅力を案内するイベントやツアーの実施
 - b. 海外青少年グループや研修生等の学校訪問やユースホステルでの交流活動をアレンジ
 - c. 宿泊者同士を結びつけ交流が出来る場 (エブリデイワンやまち歩き等) の提供

2. プロモーション活動とマーケティング

情報発信の方法を日々見直し、目的となる利用層の獲得に努めます。また利用者アンケートやコメントを元に改善を行い、更なる顧客やリピーター増に取り組みます。

- a. ホームページの他言語化や Facebook などネット上での情報発信強化
- b. 京都文化交流コンベンションビューローや JNTO（日本政府観光局）主催の外客誘致プロモーションへの積極的な参加
- c. ユースホステルまでのアクセス方法など細かな点についてのアンケート実施

3. 安心・安全で居心地の良い施設の提供

オープンして 8 年、ハード面で必要な箇所は修繕や補強を行いつつ、より居心地の良い施設づくりや新たな魅力づくりに取り組みます。

- a. 施設の計画的な補修繕の実施と魅力向上の為の調度や設備等の充実
- b. 客室における Wi-Fi 環境の整備
- c. 災害時を想定した備蓄計画を立て、水と非常食を備蓄

4. 地域との連携

地域の青少年が、ユースホステルを通して世界に触れる多様な経験の機会を提供し、子どもたちの将来の可能性を広げる体験を手伝います。

- a. 宇多野ユースホステルの外国人スタッフを地域のイベントや学校の学習、交流事業へ派遣
- b. 地域小学生の総合学習の場として宇多野ユースホステルの利用や機会の提供

5. その他

- a. 物価の変動や消費税 10%への改定等に対応できる利用料上限額の見直し実現に向けたタイムスケジュールの明確化

事業活動) IV. 天橋立ユースホステル

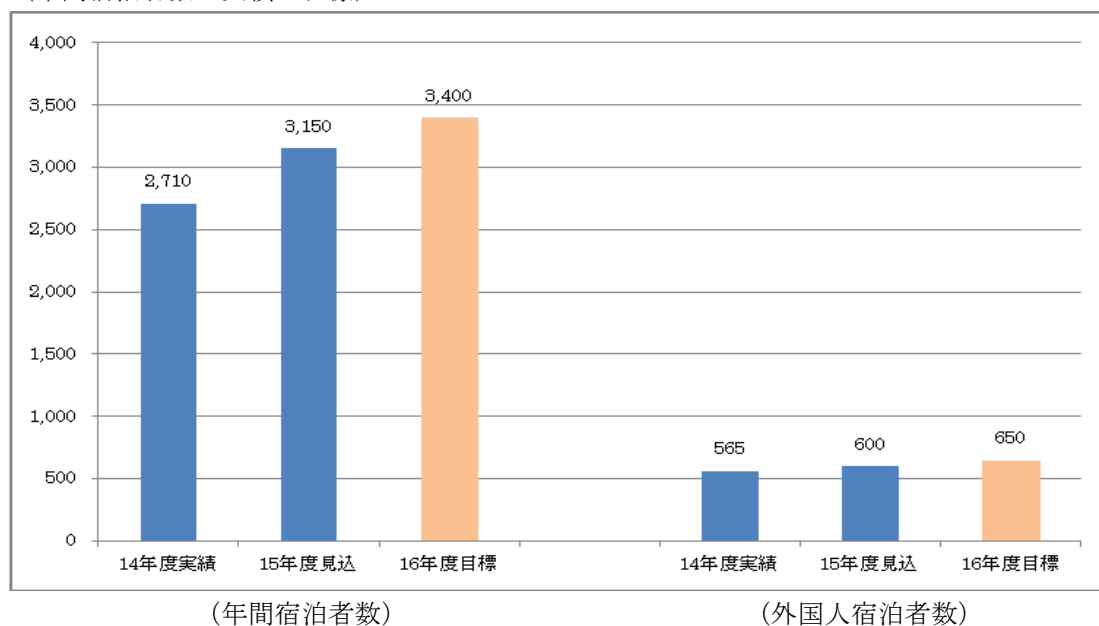
施設の老朽化や耐震補強等の課題を抱えると共に、持続可能な運営に不可欠な収支均衡は特に重要な取り組み課題となっております。そうした中で宿泊利用や食事等の提供促進をより一層図る為に、清潔、安全、安心な運営と地域ならではの魅力ある資源や体験と組み合わせた宿泊プランや食事提供、調度や設備の更新等を通じたより快適な滞在等の新たな魅力づくりによる運営改善に取り組めます。

また、現状の運営での収支や運営改善のための運営条件の改善や見直し、大規模な施設改修や耐震補強等について、宮津市はじめ関係先と引き続き協議を行います。

[事業分野別目標]

- 年間宿泊者数 : 3,400名 (前年度目標 3,500名)
- 年間外国人宿泊者数 : 650名 (前年度目標 700名)
- 年間食事提供数 : (夕食) 1,880食 (朝食) 2,100食
- アンケート宿泊満足度評価 : 80点以上 (100点満点)

(年間宿泊者数の実績と目標)



[活動内容]

1. 宿泊の快適度・満足度を向上させる取り組み
 - a. 整理整頓に努め、清潔感あるプラスイメージが感じられる施設の維持管理
 - b. 交通アクセスの不利を解消するため、交通手段の情報提供の強化や近隣バス停までの迎え等の実施
 - c. 食堂および厨房の空調改善等

2. 効率的な運営や収益改善の為の取り組み
 - a. スタッフ部屋の整備や清掃スタッフの確保等の運営体制の充実
 - b. 海外を中心とした予約サイトを駆使し、こまめな空きベッド調整による取り漏れ軽減
 - c. 事後決済可能サイトの活用やキャンセル料表記によるキャンセルリスクの回避
 - d. 丹後近海朝取れのお刺身御膳や丹後の食材を活かした朝食等、食事 PR の強化
 - e. 丹後地酒飲み比べセットや特色ある物品の販売
 - f. 家族や少人数のグループ向けの魅力あるメニューや食事パックの提供

3. 地域資源を活用したユースホステルの魅力づくり
 - a. 地域交流の場の提供：お花見会や集会スペースとしての施設活用、講演会や寄席等のイベント開催
 - b. ユースホステルを知らない層に向けて天橋立観光協会や府中観光会等、地域と連携したプログラムの提供や情報発信
 - c. 丹後地域で行われている大学生を中心とした若者層を対象とした短期留学プログラム「いなか留学」への協力
 - d. 海外インターンシップ生による地域情報発信や学校交流等の継続実施

4. 天橋立ユースホステルの将来を見据えた取り組み
 - a. 老朽化した施設を維持していくための改修や持続可能な運営を行うための収益改善に向けた運営方法の見直しなどを宮津市等の関係機関と継続協議

事業活動) V. 組織運営

当協会を取り巻く環境は絶えず変化していますが、その環境変化に上手く適応していくにはスタッフ全体で方向性を共有し、スタッフ一人ひとりが自立して行動できることが大切と考えます。また、人に限らず、その他の資源の有効活用、先に起こり得る課題を想定した準備・対策なども重要となります。

そこで、今年度は更なる組織力向上のために様々な側面での“品質管理”に力を注ぎ、安定した組織運営の継続に努めます。

[事業分野別目標]

- 総合的な品質管理の実行

[活動内容]

1. 様々な経営資源の活用をより高いレベルで推進し、総合的な品質の管理・向上を図ります。特に、人材は組織の財産であり、全ての資源を動かす原動力となるため、計画的に育成を進めます。
 - a. 取り組みの方向性やそれぞれの役割、仕事に対する意識や工夫など、各回テーマを定めた定期研修の実施
 - b. 経験や役割に応じた研修プランの作成、継続実施：基礎研修・業務研修・管理職研修
 - c. 個々人の月次業務プランの活用による業務の進捗管理とサポート
 - d. 効率化への投資やムダ・ロスの削減など、メリハリとバランスを保った経費活用
 - e. 四半期ごとの収支状況チェックの継続、分析精度の向上
 - f. システムの導入（レジシステム）や作業手順の見直しによる効率化の推進
 - g. リスクの把握や対応力向上のための協議継続、それぞれの持ち場で起こり得るリスクの定期確認や対応マニュアルの充実、事例集の作成

予算概要

[予算概況]

2008年の建て替え以降、宇多野ユースホステルの宿泊実績を順調に伸ばすことが出来ているので、2016年度は職員を1名増員し、適正な体制での運営を予定しております。

また、将来に向けた施設修繕のための引当金やパート職員の賃金見直し、国内外での青少年の体験活動を応援する事業なども計画しております。

その結果、経常収益・経常費用ともに増加し、当期経常利益は3,884,000円を見込んでおります。

[公益目的財産額]

2015年度の公益目的事業の収支差額は▲389,900、公益目的財産額は53,799,492円となる見込みです。

また、2016年度は特に指定管理事業において収支のバランスを取りながら計画している事業を遂行し、公益目的のために使用する必要がある財産額を3,157,000円減らす計画を立てております。

[経営実績の推移]

	12年度実績	13年度実績	14年度実績	15年度見込	16年度予算
経常収益(売上)	200,424,367	194,365,919	196,946,399	215,858,898	219,080,000
ユースホステル活動及び関連活動	58,827,653	57,124,296	60,623,410	62,742,012	64,901,000
指定管理業務	129,336,641	125,843,170	125,876,710	143,050,483	143,725,000
組織運営業務	12,260,073	11,398,453	10,446,279	10,066,403	10,454,000
経常費用(費用)	195,499,598	181,001,254	186,432,548	209,050,089	215,196,000
ユースホステル活動及び関連活動	55,982,511	47,177,042	53,149,431	53,466,100	57,899,000
指定管理業務	124,453,614	119,577,309	121,991,861	142,185,358	144,978,000
組織運営業務	15,063,473	14,246,903	11,291,256	13,398,631	12,319,000
当期経常増減額(経常利益)	4,924,769	13,364,665	10,513,851	6,808,809	3,884,000
経常外増減額(経常外利益)	0	▲3	0	0	0
当期正味財産増減額(純利益)	4,924,769	13,364,662	10,513,851	6,808,809	3,884,000
次期正味財産期末残高	54,385,432	67,750,094	78,263,945	85,072,754	88,956,754

(内、公益目的事業)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度見込	2016年度予算
公益目的財産額(期首)	49,227,476	47,651,494	51,297,844	54,189,392	53,799,492
公益目的収支額	▲1,575,982	3,646,350	2,891,548	▲389,900	▲3,157,000
公益目的財産額(期末)	47,651,494	51,297,844	54,189,392	53,799,492	50,642,492

[2016年度予算]

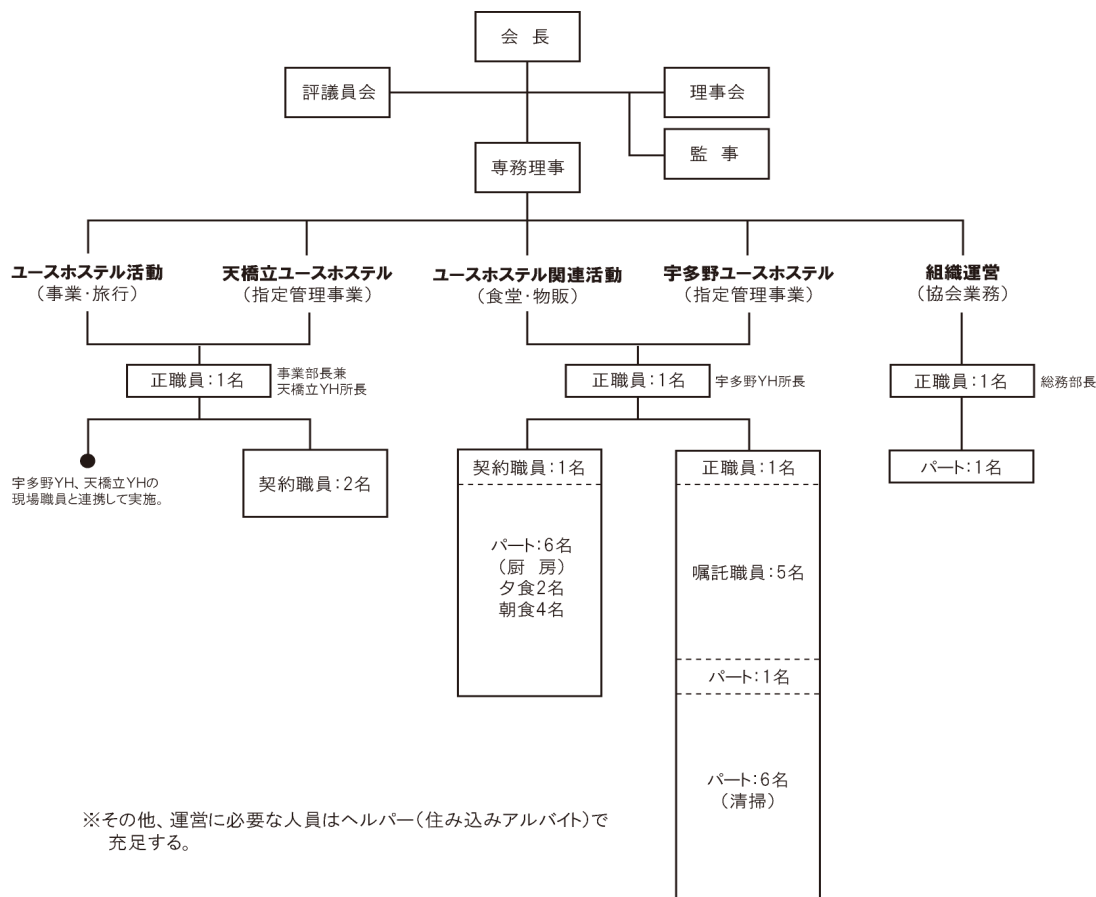
※ 別紙「2016年度事業予算書(案)」をご参照下さい。

組織概要

[組織]

事業活動ごとに適正な人員体制を整え、状況に応じ部門を越えて横の連携を図る。

[組織体制図]



[協会役職員数]

評議員：9名、理事：9名、監事：3名、職員：31名（アルバイト・パート含む）

[協会名]	一般財団法人 京都ユースホステル協会
[代表者の役職氏名]	会長 堀場 厚
[財団設立]	1968年2月12日 ※ 2011年8月1日（一般財団法人へ登記移行）
[協会所在地]	京都市右京区太秦中山町 29 宇多野ユースホステル内
[電話番号]	075-462-2312（代表）